



# 江差町【北海道】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年3月 ■ 人口：7,767人 ■ 面積：110km<sup>2</sup>  
■ 担当課：江差町教育委員会社会教育課（平成30年3月現在）



「江差町歴史文化基本構想」の策定時に723件の文化遺産（＝「江差のお宝」）をデータベース化した。「歴史が暮らしにとけこみ「生活のリズム」を刻むまち」を目指す姿とし、「江差のお宝」をまちづくりに生かすため、町民とともに「エエ町、江差 宝箱会議」を設置し、「江差のお宝」のさらなる収集、それをストーリーに基づいてまとめた「宝箱」（関連文化財群）の認定などを進めていく。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

地形、本州との交流、風土に適った変化  
有形と無形の相関性、生活のリズムに根ざす

### 課題

- ・「江差のお宝」の収集
- ・財政的な支援
- ・構想の普及啓発
- ・防災・防犯の取り組み

### 保存活用方針

- ・「宝箱」ごとに計画を策定
- ・保存活用の担い手を明確にする
- ・現在の暮らしと計画を結びつける
- ・計画の検証と見直しをする

## ◆ 保存活用のための取り組み

### 「エエ町、江差 宝箱会議」の設置

これまでも町内には、文化遺産を保存・活用している個人・組織があったが、「江差町歴史文化基本構想」の考え方を普及するとともに、様々な個人・団体の連携を図り、実践を進めていく「エエ町、江差 宝箱会議」を町民とともに設置する。



### 「江差のお宝」の収集とデータベース化

江差町内の文化遺産を、価値があるから残すという考え方だけでなく、江差らしい暮らしに不可欠なので大事にするという考え方で収集し、「江差のお宝」として、担い手とセットでデータベース化する。



### 「江差のお宝」を「宝箱」としてまとめる

複数の「江差のお宝」を、地域の歴史的、地域的関連性（ストーリー）に基づいた一定のまとまりとして捉え、「宝箱」とする。「宝箱」としてまとめることで、「江差のお宝」を新たな視点で評価し、地域社会との関係性を作り直す。

### 「宝箱」ごとの保存活用計画策定

まとめた「宝箱」ごとに、江差に暮らす人々の生活リズムに関連させた保存活用計画を策定する。

## ◆ 歴史文化の特徴と「宝箱」



本構想では、4点の歴史文化の特徴を見出し、民謡「江差追分」に関連する複数の「江差のお宝」を第1号の「宝箱」としてまとめた。民謡「江差追分」は、鷗島に停泊した北前船船員の伝えた唄が、江差の波を表現する曲調に変わったとされている。明治以降「江差追分」の発生伝承や歌詞などについて記した図書も出版され、毎年9月の全国大会は、出場者・鑑賞者とも年間の一大行事となっている。

### ストーリー

#### 江差町の歴史文化の特徴

- ① 鷗島を中心とした江差の地形から生まれた歴史文化
- ② 本州からわたってきた文化が江差の風土に合うように形を変えた歴史文化
- ③ 有形と無形が響き合う歴史文化
- ④ 日々の生活リズムに根ざして人々が今も楽しんでいる歴史文化

## ◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① **文化遺産の適切な継承**  
地域から忘れ去られて失われそうな数多くの「江差のお宝」を、その担い手とともにデータベース化し、歴史的・地域的関連性に基づいて「宝箱」として関連づけてとらえることにより、「江差のお宝」の再評価や適切な継承が見込まれる。



② **文化遺産のまちづくりへの活用**  
適切に継承された「江差のお宝」について、文化財保護法や道・町の文化財保護条例、町の諸政策との間で体系的に位置づけ、保存・活用を進める。現状を変えずに維持することだけが求められているのではなく、新たな機能を持たせて広く社会に理解してもらおう取り組みも見込まれる。



③ **歴史文化が生活にとけこむ町**  
地域で作られてきた「三平汁」は、季節ごとの素材を用いて各家庭で作られてきた。そのような「江差のお宝」は「価値があるから残す」という考え方だけでなく、「江差らしい暮らしに不可欠なので、みんなで大切にしていこう」という捉え方で、生活にとけこみながら継承されていく効果が見込まれる。

